

北部太平洋大中型まき網地域漁業復興プロジェクト（小名浜地区②）

事業実施者：北部太平洋まき網漁業協同組合連合会 使用船舶名：第八共徳丸船団（網船199トン）

支援期間：平成24年6月1日～平成27年5月31日（大中型まき網漁業）

（取組の内容）

- 船団の合理化：80トン型網船に代わり、199トン型網船を導入
 - 1船団4隻49名体制（網船1隻、探索船1隻、運搬船2隻）から
 - 1船団3隻39名体制（網船1隻、探索兼運搬船1隻、運搬船1隻）に縮減
 - 運搬船1隻を探索兼運搬船に小型化し、魚艙容積を約40%削減
- 資源管理の推進：「マサバ太平洋系群管理方策」及び26年度は「北部太平洋まき網漁業におけるサバ類の試験的IQ」に協力
- 省エコスト化：船団の合理化による燃油消費量及び氷塩代等の削減
乗組員10名の削減（49名→39名）
- 安全性居住性の向上・若手船員の確保：新造網船の操業安全性・労働環境の改善、地元高校卒業生の定期的採用
- 水揚品の自社選別販売：小名浜魚市場において水揚品を選別し、仲卸業者へ販売



網船（199トン）

（事業の成果）

- 水揚量（12,209トン）は計画（12,329トン）より120トン減
- 船団の合理化・省コスト化
 - ・乗組員は計画どおり39名とし、同人員で操業可能であることを実証
 - ・燃油消費量をほぼ計画どおり（1,817kl/年）削減
 - ・氷代・修繕費は計画135百万円/年、3年平均）を37百万円（約27%、3年平均）上回る削減
 - ・償却前利益は89百万円を確保（計画の70%）
- ILO基準に準拠した居住区の設置、操業安全性・労働環境を改善
- 3年間で第二新卒者を5名採用
- 小名浜市場において復興3年目に漁業者自ら63トンの大型イワシを選別し販売（単価は選別前より56%アップ）